

5月17日の選考委員会で、2015年度助成校・団体31件の中から『第6回日産財団理科教育賞』の大賞候補4件が決定いたしました！

7月26日に横浜ベイシエラトンホテル& Towersで開催する第6回理科教育賞贈呈式で、候補者による成果発表の結果、大賞と理科教育賞が決定します。

また、会場内では2015年度助成校・団体27件の成果ポスターを展示し、贈呈式参加者による投票の結果、『理科教育賞ポスターセッション賞』が決定します。

### — 日産財団理科教育賞 —

子ども達の科学的思考能力や、教師の指導力を向上させる教育実践において、多大な成果をあげ、かつ成果の波及効果が期待できる実践に『日産財団理科教育賞』を授与します。その中で、特に2年間の実践による「学びの質の向上」が大きいと判断された実践を『大賞』に認定します。(大賞は該当なしの年もあり)

**大賞：100万円 理科教育賞：50万円 ポスターセッション賞：20万円**

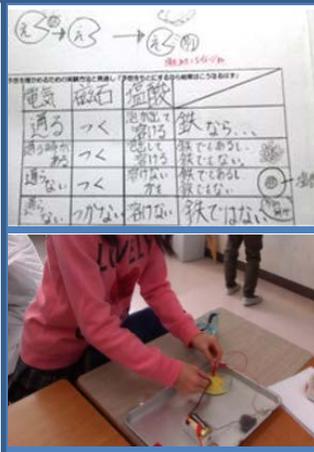
#### 【神奈川県代表】

##### 横浜市立井土ヶ谷小学校

###### 『自然を読み解く力を育てる表現と学び合い』

###### ～つながりの中で学びを深める子ども～

「自然を読み解く力を育てる表現と学び合い」をテーマに、子どもが主体となった協同的な学びの中で「自然を読み解く力」を身に付けられるようにする。表現は、自分の考えを自分自身で認識したり、他者とコミュニケーションしたりするための強力なツールである。また、学び合いは自然に対する新しい見方や考え方である「学級の知」をつくり、一人ひとりの考えを深めたりするために必要である。そこで、表現と学び合いを手立てとして、「自然を読み解く力」を育てるための授業をデザインする。



#### 【栃木県代表】

##### 宇都宮大学教育学部附属小学校

###### 『子ども主体で問題解決ができる理科授業』

問題解決の過程に子ども主体で取り組めるようにしたいと考え「子ども主体で問題解決ができる理科授業」を研究テーマに設定した。この研究の柱は三つある。一つ目は、問題を見出し、仮説を設定する活動の充実である。二つ目は設定した仮説を検証する活動の充実である。三つ目は、観察・実験結果を根拠に考察する活動の充実である。

子どもたち一人一人が科学的なものの見方・考え方で身の周りの自然事象をとらえ、科学的に学び続ける楽しさや大切さが分かる授業の在り方について研究を進めた。



#### 【福岡県代表】

##### 北九州市立祝町小学校

###### 『P D C Aサイクルを基盤とした

###### 自律型ロボットプログラミング学習の試み』

###### ～理科学習で養う問題解決能力との関連性を探る～

本実践では、計画－実行－評価－改善の繰り返し、いわゆるP D C Aサイクルによって学習を展開しながら、子どもたちの論理的思考力が向上する授業の開発に努めた。ロボットという具体物を通して楽しくプログラミングを学び、ものづくりを交えながら学習を展開していく中で、子どもたちがお互いに自分の考えを出し合って交流し、試行錯誤しながら、よりよい考えを創造していくことをねらいとした。



#### 【福島県代表】

##### 浪江町立浪江中学校

###### 『自ら学ぶアクティブ・ラーニングを導入し、

###### 理科好きな生徒を育てる授業のあり方』

###### ～ICT 機器を利用した学び合いを通して～

避難生活による科学的な生活体験の不足、科学的に思考する事への苦手意識などの課題を解決するために、科学的な好奇心を喚起し、生徒が主体的に学び合う「アクティブ・ラーニング」の実践を通し、「分かる」「楽しい」授業の創造をテーマとして活動した。また、科学的な学習の過程を補助するツールとしてICT 機器を導入し、学習の活性化を図ると共に、言語活動を充実させ、科学的概念を使用して考えたり説明したりする「科学的思考の楽しさ」を体験できるような実践につなげた。



### ☆ 第1回リカジョ賞グランプリ候補決定 ☆

### — 日産財団リカジョ賞は2017年度に新設されました —

『第1回リカジョ賞』に、4名の方々が選出されました！贈呈式当日に、この中からグランプリ1件(20万円)、準グランプリ3件(10万円)が決定いたします。

・五十嵐美樹様 (東京大学大学院) ・菅野俊幸様 (福島市立渡利中学校) ・古川三千代様 (横浜すぱいす) ・宮原裕美様 (日本科学未来館) <順不同>

※ 第2回リカジョ賞の募集期間は、2018年6月1日(金)～2019年2月28日(木)です。詳細は、日産財団ホームページをご覧ください